



タナゴが、腹にひものようなものをぶら下げているのはなぜ

ひもは、卵を産みつけるための産卵管

流れのゆるやかな川や池、ぬまなどにいるタナゴの仲間は、春から秋にかけて、卵を産む時期になると、メスの腹の下に、ひものような産卵管がのびてきます。

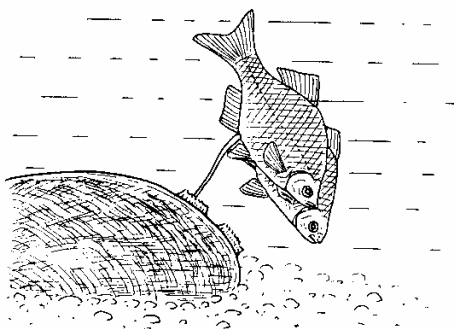
じつは、タナゴの仲間は、ドブガイやカラスガイ、マツカサガイなど、真水にすむ2枚貝の、体の中に卵を産む、変わった魚なのです。

2枚貝の出水管から、卵を貝の体に産みつける

タナゴのオスとメスは、2枚貝が殻を開くのをまち、メスがすばやく出水管の中に産卵管をさしこみ、貝のえらにある水の通り道に卵を産みつけます。オスは、入水管から精子(オスの体質や性質を伝えるもの)を流しこみ、貝のえらの中で、タナゴの卵と精子がいっしょになります(受精する)。貝のえらの中は、いつも新鮮な水が送られ、敵もいない安全な場所です。卵からかえった子魚は、貝の体の中で、卵の栄養分で育ち、ひれなどができて、泳いでえさが食べられるようになると、外に出てきます。

(監修・安部 義孝)

産卵管がのびたメス



2枚貝

